

公明党京都市会議員団は、報第2号から18号については認定をし、議第116号から118号については賛成するとの態度を表明しておりますので、会派を代表して討論を行います。

一般会計決算の実質収支については、昨年度に引き続き、公債償還基金を大きく取り崩す大変に厳しい結果となりました。

しかしながら、実質収支の黒字を確保し、昨年度に比して単年度収支を改善できたのも、国の経済政策と本市の成長戦略が功を奏し、市税収入が増加するとともに、市税等の過去最高の徴収率を達成し、市有地の有効活用なども含めた行財政改革を徹底した成果であります。議員団として本市の取組を評価いたします。

少子高齢化が進む中、今後ますます社会保障費が増加し、本年の自然災害を振り返ると、防災対策が新たな段階を迎え、今後、更なる防災減災対策費の増加が必緊の課題といえます。

このような時代に対応するためには、更なる財源の確保と本市の財政上の大きな目標である特別の財源対策脱却をなんとしても成し遂げなければなりません。

今後、さらに京都経済の活性化に取組み、税収増加を図るとともに、新たな視点からのスクラップアンドビルドを強力に推進すべきと考えます。

以下、決算について主な施策に対する評価と今後の課題について申し述べます。

防災対策については、従来の対策では対応できないような、多くの新たな課題に対し、しっかりと検証し、風災害、土砂災害や倒木、停電対策、避難場所の運営、ライフライン情報の提供のあり方など、災害に強いまちづくりに向けて、万全の対策を求めます。

空き家対策につきましても、防災・減災の視点から適正管理を行えるように、所有者に対してのアプローチを行うとともに、衛生面での課題についても、保健福祉局と連携した取組をお願いします。

保健福祉子育て施策については、児童虐待防止につきましても、児童相談所の一層の体制及び他機関との連携強化を進め、虐待から子どもの命を守る取組を進めていただくことと合わせて、地域福祉の課題が増え続けるなかで、今後ますます重要となる地域包括支援センターの役割について検討していただくよう要望いたします。

活況を呈する観光では、「持続可能で満足度の高い」観光の実現に取組み、観光の経済効果を市民生活の向上につなげていくと同時に、市民生活と観光との調和を図る取組みを進めていただきますようお願いいたします。

京都経済を更に活性化していくためには、コンテンツ産業、グリーンイノベーション・ライフイノベーションなどの新規成長分野への支援、中小企業の振興、事業承継、伝統産業へのきめ細やかな支援を更に進めていただきますようお願いいたします。

環境政策については、市民の地球温暖化問題への関心喚起や、さらなる温暖化対策の実践に向けた機運醸成の取組みを進めていただき、南部クリーンセンター第二工場に併設する環境学習施設については、世界最先端の技術に触れ地球環境やエネルギーなどの環境問題について学べる環境学習の拠点となる施設の構築をお願いいたします。

文化振興については、ICOM KYOTO2019（国際博物館会議京都大会）の開催にあたり、市民の盛り上がり醸成と、ICOM KYOTOをレガシーとして今の世代、そして次世代に遺していく取組を強い決意をもってすすめていただきますようお願いいたします。

SDGsの推進については、取組を加速化させるとともに、市民ぐるみの全庁をあげた取組をお願いします。

次に、水道事業・公共下水道事業については、節水型社会の定着、水需要の減少傾向が続く中、効率的な事業運営により、連続して黒字を確保されています。今後、更なる経営の効率化を図るとともに、老朽化対策と災害対策の取組みを着実に進めていただきますようお願いいたします。

市バス・地下鉄事業については、「京都市交通局市バス・地下鉄中期経営方針」に基づき、収入増加策やコスト削減などのご努力により、乗客数、収益が増加。地下鉄においては、1年前倒しで経営健全化団体からの脱却を成し遂げられました。今後は、市バス・地下鉄ともに車両更新費に多額のコストが見込まれることや運転手不足の解決、混雑緩和に向けた取組を進めていただくこととあわせて、交通 IC カードによる市民サービスの向上に努めていただきますようお願いいたします。

以上、平成 29 年度決算の評価と課題を述べました。今後、市民が幸せを実感できる市政運営を推進されることを望み、賛成討論といたします。

ご清聴ありがとうございました。